

CentreCOM® 8724XL/8748XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8724XL/8748XL（以下、CentreCOM を省略）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl06 (2.5.1-06)

2 重要：バージョンアップ時の注意事項

ソフトウェアバージョン **2.3.1 pl08** から **2.5.1 pl06** にバージョンアップすると、最初の再起動時には「設定なし」の状態での起動します。

バージョンアップ後は、コンソールからログインし、SET CONFIG コマンドで起動時設定ファイルを指定しなおした後、本製品を再起動してください。例えば、バージョンアップ前に mynet.cfg という設定ファイルを使用していた場合は、次のようにします。

```
SET CONFIG=mynet.cfg
```

```
RESTART SWITCH
```

また、リモートからバージョンアップを行うときは、バージョンアップ後アクセス不能に陥ることを避けるため、次の手順にしたがってください。

1. バージョン **2.3.1 pl08** で動作している本製品にログインします。
2. 次のコマンドを実行し、Boot configuration file: に表示されるファイル名をメモします。

```
SHOW CONFIG
```

3. 次のコマンドを実行し、現在の設定を boot.cfg に保存します。boot.cfg は、「設定なし」で起動したときに自動実行される特殊なファイルです。

```
CREATE CONFIG=boot.cfg
```

4. ログアウトします。
5. 「バージョンアップ手順書」の指示にしたがって、**2.5.1 pl06** にバージョンアップします。
6. バージョン **2.5.1 pl06** で動作している本製品にログインします。
7. 次のコマンドを実行します。xxxx には手順 2 でメモしたファイル名を指定します。

```
SET CONFIG=xxxx
```

8. 手順 3 で作成した boot.cfg を削除します。


```
DELETE FILE=boot.cfg
```

9. 以上です。

3 本バージョンで追加された機能


ソフトウェアバージョン 2.3.1 pl08 から 2.5.1 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8700 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.B) をご覧ください。

3.1 システム管理コマンドの追加

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」**

システム管理コマンドとして、RESET CPU UTILISATION コマンド (SHOW CPU で表示する CPU 利用統計のクリア) と、SHOW SYSTEM SERIALNUMBER コマンド (シリアル番号の表示) が追加されました。

3.2 NVS 上のシステムファイル保護

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」**


NVS 上のシステムファイルを保護するため、毎起動時、フラッシュメモリー上にコピーを自動作成するようになりました。コピー処理は自動で行われるため、特に意識する必要はありません。保護対象のファイルは、prefer.ins、config.ins、enabled.sec です。

3.3 SNMPv2c

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**


ネットワーク管理プロトコル SNMP (Simple Network Management Protocol) のバージョン 2c (SNMPv2c) に対応しました。

3.4 AT-A42

 **「取扱説明書」 119 ~ 121 ページ**


拡張モジュール AT-A42 (GBIC スロット× 1) に対応しました。AT-A42 で使用可能な GBIC モジュールは、AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G9ZX です。

3.5 VLAN の"PROTECTED" オプション (8724XLのみ)

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャルLAN」**

CREATE VLAN コマンドに PROTECTED オプションが追加されました。このオプションを付けて作成した VLAN 内では、ポート間のレイヤー 2 通信ができなくなります (レイヤー 3 通信は可能)。本機能は 8724XL のみのサポートです。

3.6 ハードウェア IP フィルターの機能拡張

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアIPフィルター」**

ハードウェア IP フィルターに新条件 IPDSCP や新アクション NODROP、MOVETOSTOPRIO などが追加され、より詳細なフィルタリングが可能になりました。

3.7 PPPoE

 [「コマンドリファレンス」 / 「PPP」](#)

FTTH、ADSL などのブロードバンド系インターネット接続サービスで広く使用されている PPPoE (PPP over Ethernet) に対応しました。

3.8 ICMPメッセージの送信・非送信設定

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」](#)

一部の ICMP メッセージ (Network Unreachable、Host Unreachable、Redirect) について、送信する・しないの設定変更が可能になりました。設定は ENABLE/DISABLE IP ICMPREPLY コマンドで行います。デフォルトは「すべて送信」です。

3.9 RIP・OSPF経路の優先度 (preference) 設定

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」](#)


RIP や OSPF で学習した経路の優先度 (preference) を変更できるようになりました。設定は SET IP ROUTE PREFERENCE コマンドで行います。

3.10 ARP キャッシュログ

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」](#)


ARP キャッシュの変更 (登録・削除) をログに記録する機能が追加されました。デフォルトは無効ですが、ENABLE IP ARP LOG コマンドで有効化できます。

3.11 IPv6 (AT-FL-13)

 [「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」](#)

次世代インターネットプロトコル IPv6 (Internet Protocol Version 6) に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。

3.12 IP マルチキャストルーティングのハードウェア処理 (AT-FL-03)

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「概要」](#)


IP マルチキャストルーティングをハードウェア処理できるようになりました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

3.13 PIM-DM (AT-FL-03)

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」](#)


マルチキャスト経路制御プロトコル PIM-DM (Protocol Independent Multicast - Dense Mode) に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

3.14 PIM-SM (AT-FL-03)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

マルチキャスト経路制御プロトコル PIM-SM (Protocol Independent Multicast - Sparse Mode) に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

3.15 ファイアウォール (AT-FL-02) : TCP/SYN 代理応答の有効・無効設定


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「ファイアウォール」](#) / [「ファイアウォールポリシー」](#)

TCP/SYN パケットに対するファイアウォールの代理応答を無効化できるようになりました (DISABLE FIREWALL POLICY TCPSETUPPROXY コマンド)。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-02 が必要です。

4 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン **2.3.1 pl08** から **2.5.1 pl06** へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8700 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.B) をご覧ください。

4.1 ファイル名の文字数拡張

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「記憶装置とファイルシステム」](#)

ファイルのベース名 (拡張子より前の部分) に使用できる文字数が 8 文字から 16 文字に拡張されました。


4.2 コマンドラインの入力文字数拡張

 [「取扱説明書」](#) 37 ページ

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「コマンドプロセッサ」](#)

1 行で入力できるコマンドの最大文字数が 121 文字から 1000 文字に拡張されました。

4.3 ポート帯域制限機能の設定可能ポート数拡張

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) をすべてのポートに対して設定できるようになりました。

4.4 プロキシ ARP のデフォルト設定変更

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「ARP」](#)

VLAN 上に作成した IP インターフェースのプロキシ ARP 設定がデフォルト ON から OFF に変更されました。プロキシ ARP を使用する場合は、ADD/SET IP INTERFACE コマンドの PROXYARP パラメーターに ON を指定してください。

4.5 IGMP Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

IGMP Snooping が IGMP モジュールから独立し、完全なレイヤー 2 機能になりました。これにより、IP や IGMP を有効化しなくても IGMP Snooping を使用できます。IGMP Snooping はデフォルト有効です。

5 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン **2.3.1 pl08** から **2.5.1 pl06** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 5.1 ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dStpPriority] と [dot1dBaseType] に正しい値がセットされませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.2 受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) を 1000Kbps 未満に設定したポートにおいて、データ長 1469 Byte 以上の PING パケットが破棄されていましたが、これを修正しました。
- 5.3 パケットの種類に関係なく、パケットの受信中に本体を起動すると、フォワーディングデータベースに不明な MAC アドレスが登録される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 5.4 DELETE SWITCH FILTER コマンドの ENTRY パラメーターで、ハイフンによるエントリー番号の指定ができませんでしたが、これを修正しました。
- 5.5 SHOW SWITCH FILTER コマンドで、100 以降のエントリー番号が下 2 桁しか表示されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.6 ハードウェア IP フィルターにおいて、IPOINT パラメーターと PRIORITY パラメーターを併用したエントリーが正しく機能しませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.7 レコードルートオプション付きの IP パケットを正しくルーティングできないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.8 VID の差が特定の値のとき、該当する VLAN 間のルーティングができませんでしたが、これを修正しました。
- 5.9 DHCP クライアント機能において、リース延長要求中 (RENEWING 状態のとき) に、DHCP request メッセージをユニキャストでなくブロードキャストで送信していましたが、これを修正しました。
- 5.10 DNS リレー使用時、ID=0 の DNS Query を受信するとリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.11 DNS リレー使用時、メモリーが枯渇することがありましたが、これを修正しました。

- 5.12 DVMRP (AT-FL-03) において、Graft/Prune メッセージを受信すると、受信ポートの所属 VLAN 内すべてのポートに Graft/Prune メッセージがフラッディングされていましたが、これを修正しました。
- 5.13 DVMRP (AT-FL-03) において、Graft/Prune メッセージの Source Address フィールドにホストのアドレスではなく、ネットワークアドレスが設定されていましたが、これを修正しました。
- 5.14 IGMP (AT-FL-03) を有効 (ENABLE IP IGMP) から無効 (DISABLE IP IGMP) に設定しても、Report メッセージがフラッディングされませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.15 ファイアウォール (AT-FL-02) 使用時、リアルタイムクロックが「AM 00:00:00」頃になると TCP セッションが切断されることがありましたが、これを修正しました。
- 5.16 SHOW VRRP コマンドで表示される「Up Master Trigger」と「Down Master Trigger」カウンターの値が、トリガーが起動された回数でなくトリガー番号になっていましたが、これを修正しました。
- 5.17 DHCP サーバー機能において、プールされた IP アドレスのうち最初の IP アドレスに限り、本体起動時に使用状況の確認が行われませんでしたでしたが、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl06 には、以下の制限事項があります。

6.1 SNMP MIB オブジェクトについて


 「取扱説明書」 79～81 ページ

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。


- MIB-II オブジェクト [ifInErrors] が正しくカウントアップされません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot3StatsFrameTooLongs] が正しくカウントアップされません。

6.2 8748XL の 10/100Mbps ポートトランキングについて

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


トランクグループがポートグループ「1～24」と「25～48」をまたぐような設定はできません（例えば、トランクグループ *uplink* にポート 1,2,25,26 を追加するような設定「ADD SWITCH TRUNK=*uplink* PORT=1,2,25,26」）。トランクポートが「1～24」または「25～48」のどちらかのポートグループにすべて入るよう設定してください。

6.3 ポートミラーリングについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」](#)

本製品（CPU）が送信するパケットは、ソースポートがタグ付き・タグなしのどちらであっても、タグ付きでミラーポートから出力されます。

6.4 ハードウェア IP フィルターの SENDNONUNICASTTOPORT アクションについて (8748XL のみ)

 [「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」](#)

8748XL では、ポート 25 ~ 48 とポート 50 で受信したパケットに対して、ハードウェア IP フィルターの SENDNONUNICASTTOPORT アクションが機能しません。


6.5 TRACE コマンドについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」](#)

TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がリポートすることがあります。最初の TRACE が完了するのを待つか、STOP TRACE コマンドで最初の TRACE を中断してから次の TRACE を実行してください。


6.6 IP 統計情報の表示について

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」](#)

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」](#)

- IP マルチキャストパケット受信時に、SHOW IP COUNTER=MULTICAST で表示される IP Multicast Counters がカウントアップされません。
- ファイアウォール（AT-FL-02）有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター（ifInPkts、ifInBcastPkts、ifInUcastPkts、ifInDiscards）に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。

6.7 ディレクティブブロードキャストアドレス宛のパケットについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」](#)


異なるネットワークからディレクティブブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース（パケットを実際に送り出すインターフェース）の IP アドレスがセットされます。

6.8 RIP による経路情報の通知について

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(RIP\)」](#)

ADD IP ROUTE コマンドで設定されたネクストホップルーターが属するインターフェースから、スタティックまたは OSPF 経路情報が RIP で正しく通知されません。

6.9 OSPFにおける経路変更について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」**

OSPF 使用時、同一宛先に対して複数の経路が存在する場合、ケーブルを抜き差しするなどして頻繁に経路を切り替えると、タグなしポートからタグ付きパケットが送信されます。

6.10 ソフトウェア IP フィルターについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」**


ADD/SET IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。

6.11 DHCP リレーエージェント機能について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」**


DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値（最大転送回数）より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

6.12 IPv6 (AT-FL-13) の PING について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「概要」**


- IPv6 アドレス宛てに PING コマンドを実行する場合、LENGTH パラメーターに 1453 (Byte) 以上の値を指定すると、フラグメントパケットが正しく生成されず、PING がタイムアウトします。LENGTH パラメーターに 1453 以上の値を指定しないでください。
- 本製品と相手機器双方の Neighbour キャッシュが空の状態、相手機器から本製品に向けてデータ長 1453 Byte 以上の IPv6 PING を実行すると、本製品がリポートすることがあります。本製品に対して、データ長 1453 Byte 以上の IPv6 PING を実行しないでください。

6.13 PIM-DM (AT-FL-03) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」**


- 本製品が Assert Loser のとき、Prune Limit Timer 満了後に上流ルーターからマルチキャストパケットを受信しても Prune メッセージを送信しません。そのため、Assert Winner との間で Assert メッセージのやりとりが頻繁に発生します。
- Prune 状態のインターフェースで State Refresh メッセージを受信しても、Expiry time が受信直後に更新されません。
- State Refresh メッセージを送信するインターフェースが Prune 状態を保持せずにマルチキャストパケットを送信します。


6.14 PIM-SM (AT-FL-03) について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- ADD/SET PIM INTERFACE コマンドの HELLOINTERVAL パラメーターが正しく動作しません。
- PIM-SM 使用時、ダウンしていた経路が復旧すると本製品がリブートすることがあります。
- PIM-SM とタグ VLAN を併用すると、パケットを重複して受信する場合があります。
- 本製品と上流ルーター、下流ルーターが同じ VLAN に所属しているとき、1 度の Join メッセージでは、下流ルーターにマルチキャストパケットを送信しないことがあります。

6.15 ファイアウォール (AT-FL-02) について

 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォールポリシー」

 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「フィルタールール」

- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが2 ずつカウントされます。
- ファイアウォールルールにアクセスリストを指定した場合、該当のルール以降のルールが無効になります。アクセスリスト以外に複数のルールを併用する場合は、アクセスリストのルール番号に「299」（最終番号）を指定してください。

6.16 DHCP サーバー機能について

 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

クライアントに割り当てていた IP アドレスを解放した場合、SHOW DHCP RANGE コマンドの表示項目 Free Address（未使用の IP アドレス一覧）に、該当の IP アドレスが重複して表示される場合があります。


7 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 8700 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (Rev.B)」の補足事項です。

7.1 8748XL のフラッシングレートについて


リンクしている 10/100Mbps ポートの数によって、拡張モジュールの 1000Mbps ポートのブロードキャスト、マルチキャストの転送率が下がる場合があります。

7.2 ポートランキングについて

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


- 8748XL の 10/100Mbps ポートランキングでは、以下のような場合、トランクポートが所属する VLAN 以外の VLAN からルーティングされ、トランクポートから送信されるパケットの負荷分散が行われません（冗長機能は動作します）。
 - ・ 受信ポートとトランクポートがポートグループ「1～24」と「25～48」をまたいだ場合（例えば、受信ポート（VLAN1）がポート47で、トランクポート（VLAN2）がポート1～4といった場合）
- 8748XL では、1000Mbps ポートランキングはサポート対象外です（8724XL ではサポート）。
- ポートランキングと下記の機能は併用できません（トランクポートでは下記の機能を使用できません）。
 - ・ スパニングツリー
 - ・ IGMP/IGMP Snooping

7.3 フォワーディングデータベースについて

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

7.4 IP マルチキャストのハードウェア処理 (AT-FL-03) について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「概要」

スイッチ間をタグ付きポートで接続している場合、タグ付きポートを通過する IP マルチキャストパケットは、最も小さい VID を持つものだけがハードウェア処理の対象となり、他の VID を持つパケットはソフトウェア処理となります。ソフトウェア処理される場合のパフォーマンスは「ワイヤースピード ÷ VLAN 数」となります。タグ VLAN 環境で IP マルチキャストを使用するときは、タグ付きポートに割り当てる VLAN 数を 3 つまでにすることをおすすめします。

7.5 DHCP の静的割り当て設定について

 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

DHCP レンジ内の IP アドレスを特定の MAC アドレスに静的割り当てする場合、以下の点にご注意ください（静的割り当ての設定は ADD DHCP RANGE コマンドで行います）。

- 静的割り当ての対象となる端末（DHCP クライアント）は、DHCP レンジの所属サブネットでしか使用できません。本製品は、静的割り当て対象の MAC アドレスに対して、つねに静的な IP アドレスを割り当てようとするため、端末を他のサブネットに移動すると、（動的割り当てによる）アドレス設定が正しく行えなくなります。静的割り当てした

端末を他のサブネットに移動するときは、DELETE DHCP RANGE コマンドで静的割り当てエントリーを削除してください。

- 同一の MAC アドレスに対して複数の静的割り当てエントリーを作成した場合、最後に作成したエントリーだけが有効となります。1つの MAC アドレスに複数の IP アドレスを静的割り当てしないでください。

8 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下の機能別キーワードを含む全コマンド
ENABLE の後に[?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLETALK, BGP, BRI, CLASSIFIER, ENCO, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, PIM6, IPSEC, IPX, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBALANCER, LB, LPD, MIOX, PKI, PRI, Q931, RADIUS, RSVP, SA, SERVICE, SSH, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3

- 以下のコマンド (パラメーター)
太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「CentreCOM 8700 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (Rev.B)」に記述があります。

COPY

DUMP

START PKT

STOP PKT

SET PKT

TRACE [ADDRONLY]

PING [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]

SET PING [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]

SHOW SWITCH SOCK

SHOW SWITCH MEMORY

SHOW SWITCH SWTABLE

SET SWITCH SOCK

SET SWITCH PORT [MULTICASTMODE] [SPEED={1000MHALF ; 1000MFULL ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO}]

SET STP [MODE] [RSTPTYPE]

SET STP PORT [EDGEPORT][PTP]

ADD/DELETE/SET IP MVR
CREATE/DESTROY IP MVR
ENABLE/DISABLE IP MVR
CREATE/DESTROY IP POOL
SHOW IP POOL
CREATE/DESTROY IP IGMP
ADD/DELETE IP IGMP
ADD/DELETE IP ROUTE FILTER [PROTOCOL={STATIC ; INTERFACE}]
ADD/DELETE IP ASPATHLIST
SHOW IP ASPATHLIST
ADD/DELETE IP COMMUNITYLIST
SHOW IP COMMUNITYLIST
ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY
ADD/DELETE IP EGP
ENABLE/DISABLE IP EGP
SHOW IP EGP
ADD/DELETE/SET IP ROUTEMAP
SHOW IP ROUTEMAP
ADD/DELETE IP SA
SHOW IP SA
SET IP ARP [DLCI] [CIRCUIT]
SET IP RIP NEWIPADDRESS
SET IP AUTONOMOUS
SET IP FLOW
SHOW IP FLOW
SHOW IP CACHE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]
ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
SET DVMRP [DLC]
SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 MLD
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC

ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
ADD/DELETE FIREWALL POLICY RULE [ACTION=NAT] [LIST=RADIUS]
SET FIREWALL MAXFRAGMENTS
SET FIREWALL POLICY NATMASK
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY [FRAGMENT]

CREATE QOS
ADD/DELETE QOS
SET QOS PORT
SET QOS POLICY
SET QOS TRAFFICCLASS
SET QOS FLOWGROUP
SHOW QOS POLICY
SHOW QOS TRAFFICCLASS
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT] [FRAGOVERHEAD]
[LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER] [NUMBER] [TYPE]
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOperation] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE] [MODEM]
[NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACCHECK] [TERMINATE] [TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

9 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8700シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (J613-M6920-01 Rev.B)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M6920-01 Rev.B」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

